

講演と3つの研究を発表

岐阜県森林研究所

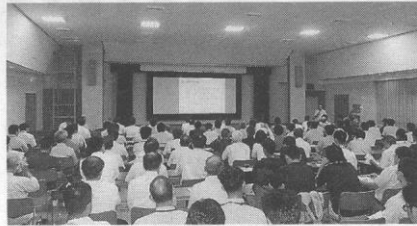
岐阜県森林研究所
(岐阜県美濃市、古川邦明所長)は13日、2016年度研究・成果発表会を中濃総合庁舎(同市生籾)で開き、「岐阜県における低コスト再造林」をテーマに講演と研究発表を実施した。今回も長野県林業総合センターと連携し、同センターの各研究成果も合わせて全12テーマのポスター発表を行った。

講演「低コスト再造林で考えるべきこと」

コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究から」では、宇都木玄森林総合研究所植物生態研究領域チム長が、再造林の手段として注目を集めているコンテナ苗について、その特徴や課題、評価などをオーストリアでの事例も引用して解説した。国産杉コンテナ苗に

関係しては、稔種子選別技術により発芽率が向上し、植栽が簡単に活着率も良く、初期成長が早いことなどを指摘した。研究発表では、岐阜県森林研究所森林資源部の茂木靖和氏が「ヒノキ・コンテナ苗の初期成長を早めるには」と題して、コンテナ苗育成時の追肥や培地へのゼオライト混入などを説明。

同部の岡本卓也氏はシカ食害への対策としてツリーシェルターや金属柵、下刈り省略といった方法と各効果について解説した。会場のポスター発表では、岐阜県森林研究所の研究成果4テーマと長野県林業総合センターの同8テーマが発表された。



160人が参加し満席となった発表会